

福島漁港屋根付き船揚場の完成

北海道開発局 函館開発建設部

福島漁港は、イカ釣漁業や一本釣漁業、磯根漁業など沿岸漁業の生産拠点として重要な役割を担っています。また、つくり育てる漁業として養殖コンブ漁業が盛んに行われており、年間陸揚量の約8割をコンブ類が占めています。

当漁港の第3港区船揚場は、主に養殖コンブ漁業の陸揚げ施設として利用されていますが、養殖コンブの陸揚げ時は、野天作業であるとともに、養殖コンブに付着した泥等の洗浄作業も一連で行っているため、直射日光や降雨(真水)の影響による養殖コンブの品質低下が懸念されていました。また、冬期間は根しばり(養殖ロープにコンブを縛り付ける作業)や間引き作業など養殖コンブの管理作業が行われており、降雪時の操

業前は漁船や船揚場の除雪作業が重労働になっていました。

このことから、函館開発建設部では、直轄特定漁港漁場整備事業計画(福島地区)に基づき、令和2年8月から既設船揚場への屋根かけ整備(延長40m、奥行15.5m、梁下高3.5m)を進め、令和3年5月末に完成、同年6月から供用を開始しました。また、船揚場背後の漁船保管施設用地において砂埃防止のための防塵処理も行いました。

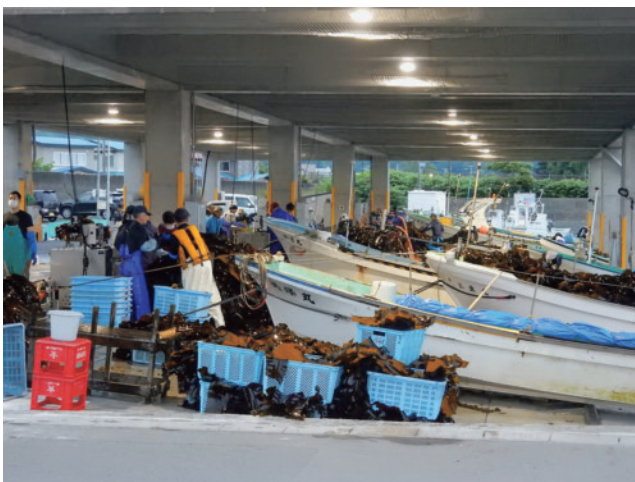
屋根付き船揚場の完成により、養殖コンブの品質低下の防止とともに、漁業利用者の就労環境の改善が図られ、養殖コンブ漁業の生産性向上・安定が期待されます。



【整備前】野天での作業状況



完成した屋根付き船揚場



【整備後】屋根付き船揚場での作業状況